

# ふるさと教育について

## 香川県教育委員会の取組

### 1. 郷土に誇りを持つ教育の推進

■ 取組の趣旨	P 1
■ 取組内容（実績）	P 2 – 10
■ 今後の取組方針	P 11

### 2. キャリア教育の推進

■ 取組の趣旨	P 12
■ 取組内容（実績）	P 13 – 14
■ 今後の取組方針	P 15

## 1. 郷土に誇りを持つ教育の推進

### ■ 取組の趣旨

- 急速な技術革新と社会のグローバル化の進展により、将来を見通すことが難しい時代を迎えている。このような時代に、子どもたちが夢や志を持って生きていくためには、その心身を支える基盤が必要である。
- 子どもたちは郷土香川の中で成長していく。その郷土について学ぶことは、郷土に対する愛着や誇りを育むことにつながり、それは子どもたち自身の自信や意欲を生むとともに、人生を歩んでいくうえで重要な視座の確立につながる。
- また、現在、地域と世界は密接につながっている。郷土を深く学び地域の課題について考えることは、グローバルな課題解決への大きな端緒となる。
- このため、「郷土に誇りを持つ教育」の意義はますます重要になってきている。

## ■ 取組内容（実績）

### 義務教育課の取組

#### （1）モデル校での実践

県教育委員会が指定した道徳教育推進モデル校において、ふるさと教育の実践を推進  
(実践内容)

- 異校種（こども園・高等学校）や地域ボランティアの人たちとの交流、地域課題に主体的に関わろうとする心情の涵養及びふるさとの特色を生かした地域教材の開発
  - ・ 自分の役割を自覚し、他者を尊重し合うペア学年での交流（なかよしタイム）の充実
  - ・ ペア学年グループで撮った写真の掲示
  - ・ なかよしタイムの計画
  - ・ なかよしタイムでの活動
- 「〇〇町が好き！」という思いを高めるための取組
  - ・ 地域を生かした体験活動の工夫
  - ・ 自己の変化を見つめる振り返り
- 家庭・地域社会とのつながりを深める「道徳の日」の充実
  - ・ 学校全体で取り組む「道徳の日」の計画・実践
  - ・ 学校だよりに道徳コーナーを設け、「道徳の日」の取組を家庭・地域に広げる

#### （2）児童生徒参加型の地域教材の開発

- ・ 令和3年度に「ふるさと教育推進検討委員会」を設置し、ふるさと教育を推進するための方策や今後の指導の在り方について検討
- ・ 検討委員会における「子どもたちの興味・関心を高める教材の開発が有効」との意見を受けて、児童生徒参加型の地域教材「かがわふるさと百人一首」を制作



# 令和7年度 香川県総合教育会議

## (3) 地域読み物教材のデジタル化

- ・ これまで紙媒体で作成・配布していた地域読み物教材「新ふるさとの心」をデジタル化
- ・ 県教育委員会ホームページに掲載し、ダウンロードして活用するよう小・中学校に周知
- ・ さらに使いやすいものとするため、令和8年度に教材を電子書籍化する予定

## (4) 「香川の子どもたちに贈る100冊」の活用

- ・ 香川県の推薦図書「香川の子どもたちに贈る100冊」の中に「郷土」をテーマにした本を選書（『柞田飛行場』『平賀源内』『香川の昔話』など6冊）
  - ・ 「23が60読書運動」で「郷土」本を紹介し、家庭での読書活動を推進
- ※「23が60読書運動」：家族で一緒に毎月23日を含む1週間に合計60分以上を目標に読書活動を呼びかける運動

## (5) 各学校におけるふるさと学習の取組例

### ○地域の特産物や祭りについて学ぶ



特産物の収穫体験



地域のお祭り学習



特産品販売促進のロゴを作成

### ○地域のリソースの活用



瀬戸大橋体験学習



キャリアビジョン講演会

### ○地域教材の活用



地域への愛着の形成

# 令和7年度 香川県総合教育会議

## 高校教育課の取組

### (1) 「かがわイノベーションプログラム」を香川大学と共同実施

- ・ 各校から参加した生徒が地域（男木島）でのフィールドワークを含むワークショップを体験する中で、地域の観光資源の新しい活用法を見いだして提案する活動



### (2) 「香川県高校生探究発表会」の開催

- ・ 各校の生徒による、郷土、社会課題等のテーマに関する探究活動の成果発表を通して、郷土への理解や郷土愛を深める機会を創出



### (3) 研究指定校において「郷土への理解・郷土愛」を育成する教育方法の開発

- ・ 令和7年度研究指定校（津田高校、琴平高校）において、「郷土に誇りを持つ教育」を推進する方法の開発を行い、探究発表会において指定校の取組を他校にも披露

### (4) 香川県産業教育振興会を設置

- ・ 産業教育の振興のため、香川県産業教育振興会を設置（県内企業による特別会員 約200社）

### (5) 地元企業紹介

- ・ 地元企業を紹介する冊子（「Tec×Tec×Cha×Cha 2025」、「発見・探検！わたしたちの地域の仕事」）を広告代理店と連携して作成・配布

### (6) 経済団体と連携協定を締結するなど協力体制の構築

- ・ 香川経済同友会と連携協定を締結（令和4年3月）
- ・ 香川県中小企業家同友会と連携協定を締結（令和5年3月末）
- ・ 高松商工会議所、四国経済連合会とは事務局レベルで年数回、連携について協議の場を設置

# 令和7年度 香川県総合教育会議

## － 県立高校の取組－

### 1 小豆島中央高校

- ・ 「島のみらいプロジェクト」において、地元の魅力や地域課題解決への取組を紹介したフリーペーパー「しまいろ」を発行

### 2 三本松高校

- ・ 「三高みんなの食堂プロジェクト」では、生徒と農業法人、大学、地域の方々がSDGsの視点を持ち、地産地消や食品ロスの減少、交流を深めて地域の良さを再認識することなどを目指し、生徒が広報活動、メニュー提案、内装デザイン、食器リペア、野菜生産などに取り組む
- ・ 探究の方法について学んだり探究の内容について助言を受けるなど、大学や東かがわ市と連携

### 3 石田高校

- ・ 大学やさぬき市観光協会等と連携したさぬき市内の建築物のPR活動（農業土木科）
- ・ 地元小学校と協力した稲作（田植え、稲刈り、餅つき）の実施（生産経済科）
- ・ 配達飲食業者と連携し、学校産の食材を使用した弁当に手紙を添えて地元の1人暮らしの高齢者に配達（園芸デザイン科、生活デザイン科）

### 4 志度高校

- ・ さぬき市の魅力を再発見し、その希少価値に気づき、県外にも発信する取組を探る（商業科）
- ・ さぬき市のふるさと納税返礼品を製作し、仲間と協力して1つの作品を完成させる楽しさや達成感を味わうとともに、ドローン等を活用した地域連携を推進し、社会に役立つものづくりを実施（工業科）

### 5 津田高校

- ・ 「ジブン×ジモト 発見・探究プロジェクトー関心と課題の掛け算で未来を描こうー」と題して、地元の企業経営者、地域おこし協力隊、自治体職員等と連携し、自分の興味・関心と、地域課題・地域資源を掛け合わせたテーマで探究活動を実施

## 令和7年度 香川県総合教育会議

### 6 三木高校

- ・ 三木町及び香川県中小企業家同友会と包括的連携協定を締結し、ジョブシャドーイング（社員に同行し、業務内容を体験する活動）を取り入れた地元企業のインターンシップを実施
- ・ 「三木といえば小蓑(こみの)―三木でつなぐ未来へのバトン」をテーマとして、三木町小蓑地区の農産品等を使用した商品開発や販売、地域住民との地域活性化に向けた会議等を実施

### 7 高松高校

- ・ 香川県の課題に対する政策提言をゴールとした探究活動を実施（テーマ例：「希少疾患専門病院設立の提案」、「オリーブによる地域循環型バイオエコノミーの提案」等）

### 8 高松工芸高校

- ・ 地元保育所と連携した知育玩具の制作（工芸科インテリアコース）

### 9 高松商業高校

- ・ 栗林公園ボランティアガイドの方々の指導のもと、現地で英語による観光ガイド学習を実施

### 10 高松東高校

- ・ 近隣の小学校やコミュニティセンターと連携し、放課後児童クラブの支援や地域ボランティア活動を実施
- ・ 大学、短大、専門学校と連携し、地域の抱える課題に対してさまざまな面からの解決策を模索

### 11 高松南高校

- ・ 「地域の防災を考える」と題してコミュニティセンターのボランティアに参加し、一宮地域の子どもたちと共に防災に関する学習を実施

### 12 高松西高校

- ・ 大学、県、高松商工会議所、企業等に外部講師を招請し、様々な地域課題に取り組む探究活動を実施（例：「高齢化が進む地域に人を呼びこむためには」、「フードロス対策」等）
- ・ 盆栽園、大学、高松市埋蔵文化財センターに講師を招請し、学校周辺を散策しながら盆栽、地形（防災）、史跡を学ぶ取組「ブラ☆きなし」を実施（1年生全員）

## 令和7年度 香川県総合教育会議

### 13 高松北高校

- ・ 高校1年生を対象に、香川県内の行政機関や企業等（9カ所）をグループに分かれて訪問し、報告会を行うキャリア教育研修を実施

### 14 香川中央高校

- ・ 株式会社マイナビと連携し、地元企業から業界の現状やSDGsへの取組を学び、SDGsの観点からさまざまな問題解決を目指す研究を実施
- ・ 学校法人穴吹学園と連携し、キャリア教育講演会を実施

### 15 高松桜井高校

- ・ 「仕事を知り進路選択の参考にする」、「大人との対話を通してコミュニケーション能力を高める」、「地元企業・地域のことを知り地域への愛着を持つきっかけにする」を目的として、地域の大人約60名を招き生徒と対話する行事を実施

### 16 農業経営高校

- ・ 「農業体験がもたらす福祉支援のかたち」というテーマを設定し、地元小学生を学校に招き農業体験を通して食の大切さについて学ぶ取組を実施
- ・ 農業体験における福祉支援に関する研究として、障がい者施設の利用者を学校に招き体験作業を実施
- ・ 大学、企業と連携し、昆虫飼料が豚の成育や豚肉の品質に及ぼす影響について研究

### 17 坂出商業高校

- ・ 櫃石島、岩黒島、与島、沙弥島、瀬居島の坂出五島&五色台をフィールドに、環境省、坂出市、旅行会社、地元自治会などと連携して地域課題の解決を図る「さかいで♡愛ランドプロジェクト」を実施
- ・ 令和7年度は坂出駅前広場（令和6年度は与島PA）において、地域の活性化を図るため、生徒による販売実習「坂商フェア セキレ」を開催

### 18 坂出高校

- ・ 教育創造コースでは、香川大学教育学部の支援を受けつつ、附属坂出小・中学校で授業見学や支援活動を実施
- ・ 普通科では、1年次に地域課題について調べ、2年次に自分たちにできる取組を発見し、探究活動へつなげる「坂出学」を実施

# 令和7年度 香川県総合教育会議

## 19 坂出工業高校

- ・ 地元中学校へ出向いての出前授業の実施、坂出市と連携し、ものづくりや地域振興に関わるイベント等を実施

## 20 丸亀高校

- ・ 県政出前懇談会の実施や、株式会社マイナビと関係等しながら地域課題を題材とする探究活動の実施（テーマ例：「香川県に最適な発電方法は？めざせエコうどん県！」）

## 21 飯山高校

- ・ 香川県中小企業家同友会と包括的連携協定を締結し、地元企業のインターンシップを実施
- ・ 校内農場を用いた「巨大ヒマワリ迷路」に近隣の幼稚園の園児等を招いて交流する取組
- ・ 地域コミュニティと連携した新しいイベントや地元企業と連携したうどんメニュー開発・イベント出店、登山による交流イベント「飯野山（いいのやま）においでまい」などの実施

## 22 丸亀城西高校

- ・ 丸亀市議会議員との市政に関する意見交換会の実施（テーマ例：「コミュニティバスの利便性向上」、「高齢者の就労」、「空き家対策」、「少子化対策」等）
- ・ 城坤コミュニティと連携した探究活動の実施
- ・ 学生、市民、行政による団体「まるがめスタート」による、地域ブランド「丸亀セレクトシオン」の取材記事作成（丸亀市市民交流活動センターマルタス）

## 23 善通寺第一高校

- ・ 四国こどもとおとなの医療センターが実施している「Healing Garden Project」と連携し、シェードのデザイン、ホスピタルアートに関するワークショップ、庭園の魅力発信や活用法の提案（デザイン科）

## 24 琴平高校

- ・ 「歴史・文化」、「産業」、「国際」、「保育・教育」、「生活・福祉」のコースに分かれ、企業、大学、自治体等と協働し、地域課題の解決に向けた案の作成
- ・ ローソン、武庫川女子大学と協働したローソンプロジェクトへの参画
- ・ 琴平町と協働したこんぴら朝市への参画

## 令和7年度 香川県総合教育会議

### 25 多度津高校

- ・ 地元造船関連企業、大学、高校、国、県からなる香川県造船教育推進協議会の支援を受けた造船コースを機械科内に設置
- ・ 多度津町と連携し、毎年町から提案される地域課題への取組

### 26 笠田高校

- ・ 三豊市、みとよA I 社会推進機構、地元農家等と連携し、薬用植物の栽培研究やスマート農業の実証実験を実施
- ・ 三豊市の小・中学校での講義、収穫体験を通して薬用作物の普及活動を実施

### 27 高瀬高校

- ・ 三豊市と連携し、地域課題を題材とする探究活動の実施（高瀬みらい塾）
- ・ 「みとよ地域の人事部」の協力のもと、探究活動において地域企業と連携

### 28 観音寺第一高校

- ・ 地域課題を題材とする探究活動の実施（例：「遍路文化の世界遺産登録の一助にするための三観地区の霊場紹介の研究」、「メタバースを活用した観光事業の企画」、「観光×農業による移住者増加に向けた提案」等）

### 29 観音寺総合高校

- ・ 総合的な探究の時間において、「誰もが暮らしやすい地域づくり」をテーマとして身近な課題を解決するためにさまざまな探究活動を実施（例：「防災意識を高めるためのSNS活用」、「昆虫食の普及活動」、「介助犬のことを広く知ってもらうための活動」、「地域の特産品「蒲鉾」と廃棄食材とをコラボした商品開発」、「発酵食品の麴や味噌を継承していくための活動」等）

## 生涯学習・文化財課の取組

### (1) 高校生のための芸術文化体験の提供（高校生のための瀬戸内アートサマープログラム 2nd（SASP 2nd））

- ・ 平成30年度より県内の高校生が瀬戸内国際芸術祭や瀬戸内の島々について学び、その成果を発表するプロジェクト「高校生のための瀬戸内アートサマープログラム 2nd（SASP 2nd）」を開催

### (2) 歴史・文化にかかわる体験活動の提供（埋蔵文化財センター普及啓発事業 等）

- ・ 埋蔵文化財センターにおいて、発掘調査の成果などについて参加型体験学習等を通して提供するなど、郷土の歴史・文化に触れる活動を推進

#### 【令和7年度】

- ・ 体験型講座（土器づくり、古代の瓦づくり、源内焼風豆皿づくりなど）
- ・ 復元竪穴住居を利用した古代ワークショップ（春編・秋編・冬編）
- ・ 発掘調査体験（さぬき市是弘遺跡）
- ・ 四国遍路道を歩く など

### (3) 自然体験などの体験活動の提供

- ・ 五色台少年自然センター及び屋島少年自然の家において、小・中学校を対象に、自然の中でさまざまな体験活動を行う集団宿泊学習を実施するとともに、主に小・中学生を対象に、自然体験などの体験活動を提供

#### 【令和6年度】

#### （利用者数）

- ・ 五色台少年自然センター 76団体 延べ21,055人
- ・ 屋島少年自然の家 138団体 延べ19,861人

#### （主催事業）

- ・ 星を見る会
- ・ 実践アウトドア体験教室
- ・ 自然体験きょうしつ
- ・ 親子でキャンプ
- ・ 親子でカヌー など

### ■ 今後の取組方針

- ✓ 小・中学校では、それぞれの地域の人・もの・ことを教材化した学習を創出し、各教科等において、家庭・地域社会と連携して取り組んでいるが、今後は、地域社会を支えるといった観点をより強く意識する中で、社会全体の課題として県や市町、企業や大学などの多様な主体と広域的に連携して取り組むことが重要であるとする。
- ✓ 地元企業経営者による出前授業や課題解決型の学習、授業への講師派遣、ジョブシャドーイングを取り入れたインタビューシップなど、地域資源を活かしたさまざまな取組を行う。
- ✓ 地元企業等と連携して、地域の魅力やつながりを調査、研究することで、就職または進学後の進路に、地元の企業を選択肢として考えるきっかけになることを目的とする。
- ✓ 各校に通う高校生が、さまざまなボランティア活動を通して地域の福祉課題に取り組むことで、学校の垣根を越えて互いに学び合い、協力し合って地域社会に貢献する活動を行う。
- ✓ 地域社会への理解と参画意識を高め、香川県の次代を担う人材を育成するため、中高生を対象に、県内の起業家等と連携して地域課題の解決策を探究するアントレプレナーシップ教育の実証研究を行う。
- ✓ 子どもたちが郷土香川を誇りに思う意識を醸成するために地域の豊かな自然や歴史、文化を知るとともに、地域の魅力や課題を捉える機会とするために「高校生のための瀬戸内アートサマープログラム 2nd (SASP 2nd)」の開催や、児童・生徒を対象とした自然体験や歴史、文化に触れる体験活動の提供を引き続き実施する。

## 2. キャリア教育の推進

### ■ 取組の趣旨

- 子どもたちが、将来、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方や働き方を実現できるよう、社会的・職業的に必要な能力・態度を育成することは学校教育の重要な役割である。
- このため、発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進し、子どもたちが自らの生き方や将来を設計し、主体的に進路を選択する力や意欲的な態度を育成する。また、地域に根差した職業教育や就職支援の充実に努めるとともに、職場定着へのサポートに努める。

## ■ 取組内容（実績）

### 高校教育課の取組

#### ● キャリア形成と自己実現の支援

##### a 自分らしい生き方の実現、社会参画の力の育成

###### プロを講師とした授業の実施

- ・ 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けられるよう、芸術家や技術者、行政職員、大学教授等、社会の各分野で活躍する社会人による授業を実施
- ・ 関係機関が実施する消費者教育や金融教育、主権者教育等を通して社会に参画する力の育成

##### b 社会的・職業的自立の支援

###### インターンシップの実施

- ・ 社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養うため、製造業、建設業、福祉施設、病院、保育所等において、2～4日間のインターンシップへの参加を推進

###### インタビューシップの実施

- ・ 地域企業と連携した「インタビューシップ」において、若手社員から企業理念や働く意義を学ぶとともに、地域との関わりの中で自らの役割を考え主体的に行動する力や他者と協働する力を育成
- ・ 地域の課題や産業への理解を深めることで、課題対応能力を育成（企業にとっても自社の存在価値を再認識する契機）

##### c 地域理解、主体性やコミュニケーション能力の育成

###### 専門高校チャレンジスピリット育成プランの実施

- ・ 他者との関わりを通して自己の将来に対する考えを深めることの大切さを理解し、専門教科の学習内容を深化・向上させることで、産業教育に関するコンテストや研究発表等に新たに挑戦する学校や、全国優勝を目指す高校を選定し支援



ため池を利用した絶滅危惧種の保全活動

## 令和7年度 香川県総合教育会議

### d 自己の活動・学習成果の振り返り

#### かがわ産業教育フェアの開催

- ・ 県立高校のすべての専門学科が参加することで、自己の活動や学習の在り方を振り返るとともに、専門教育に対する県民の関心を高め、専門学科で学ぶ生徒の学習意欲や職業観の高揚を促進



産業教育フェア（商業）

### e 教員の資質・能力の向上

#### 最新技術習得のための実技講習

- ・ 生徒のキャリア形成と自己実現のため、専門高校で指導する教員の資質・能力向上を目指し、企業の技術者等を招いた実技講習会を実施

### ● 個に応じたキャリアカウンセリングの充実

#### a 自己の可能性や適性についての自覚を深める指導・援助

##### (1) ジョブ・サポート・ティーチャーの配置（平成14年度から配置）

- ・ 就職活動において企業と高校をつなぐ、ジョブ・サポート・ティーチャー8名を兼務方式で21校に配置（令和7年度）

##### (2) 企業訪問

- ・ 新規学卒者の職場定着指導を行うため、在校当時の担任教員や就職指導の担当者、ジョブ・サポート・ティーチャー等が就職先を訪問

##### (3) 高校企業説明会の開催

- ・ 香川労働局等と連携し、就職活動中の高校生を対象として高松市と丸亀市の2か所で7月に開催（令和7年度）
- ・ 働くイメージを具体化し、選択肢を増やすことでミスマッチのない就職支援を実施



高校生企業説明会（高松会場）

## ■ 今後の取組方針

### キャリア教育の充実

- ✓ 発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進し、社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力を育成する。
- ✓ 小学校から高校までの学びの過程や自己の成長を振り返るため、キャリア・パスポートを活用・蓄積し、自立に向けた力を育む。

### 進路指導の充実

- ✓ 地域に根差した職業教育やインターンシップ等の就業体験を推進することにより、児童生徒が働くことの尊さを実感し、現在の学習が将来の社会・職業生活と密接につながっていることを理解できるようにすることで、主体的に進路を選択する力や社会に参画する意欲を育てる。

### 就職支援の充実

- ✓ ジョブ・サポート・ティーチャーによる就職相談や企業求人の開拓、早期離職防止のための職場定着指導など、地域に根差した就職支援体制を充実させ、若者の社会人としての自立と将来にわたる活躍をサポートする。

### 地域との連携の推進

- ✓ 地域の自治体、大学、企業等と連携した取組の内容をさらに深化させ、地域課題の発見から分析、解決に至るプロセスを主体的・協働的に行うことで必要な資質・能力を育成する。